



令和3年度対エルサルバドル共和国 草の根・人間の安全保障無償資金協力 「イロバスコ市ロス・ジャニトス村ケセラ・アバホ地域 飲料水供給計画」引渡し式の開催



2026年6月24日、前田慎二臨時代理大使は、ロレンソ・リバス西カバニャス市長、アレクシ・ロメロ・カンポ財団代表、カレン・エルナンデス・ケセラ・アバホ地域村落開発協会長、そして、地域住民たちと共に「イロバスコ市ロス・ジャニトス村ケセラ・アバホ地域飲料水供給計画」の引渡し式に参加した。この新しく建設された上水道施設により、地域の422世帯に飲料水が直接かつ安全に供給される。

新しく建設された上水道施設により、コミュニティの422世帯に飲料水が直接かつ安全に供給され、2,532人がその恩恵を受けることになる。コミュニティの多くの家庭には上水道が引かれていなかったため、洗濯や入浴といった日常生活、さらには水を飲むためにさえも日に2、3時間かけて共同水場から水を運んできていた。



❖ エルサルバドルの国樹であるマキリシュアをエルサルバドルと日本の友好と協力の証として植樹した。



❖ 西カバニャス市イロバスコ区ロス・ジャニトス村ケセラ・アバホ地区上水道施設での開栓

日本大使館はこうした状況を踏まえ、草の根・人間の安全保障無償資金協力（APCS）を通じて、健康と福祉において同国で最も問題を抱えるコミュニティを対象にエルサルバドル人の生活の質の向上に貢献することを目的としている。大使館は本計画を遂行するにあたり、130,200米ドルを供与し、貯水タンクの建設、給水管（650m）の提供と敷設、制御室の建設、揚水ポンプ機材と水圧調整バルブ、変圧器の設置、施工監督や外部監査の代金に使用された。

西カバニャス市イロバスコ区から56,731.44米ドルの資金協力を得て、配水管の購入と敷設を行った。カンポ財団からは13,835.60米ドルの供与を受け、井戸と貯水タンク周囲のフェンスの建設及び記念銘板と計画看板が設置された。コミュニティからは住民が非熟練工として工事に参加し、給水官と配水管の設置、各戸レベルの配水管接続と水道メーターの取り付けを行い、その額は73,100米ドル相当に上った。最終的に本案件の総額は273,867.04米ドルとなった。



在エルサルバドル日本国
大使館臨時代理大使
前田信二

上水道施設の建設により、現在、ロス・ジャニトス村の2つの学校を含む400世帯以上が、安全な飲料水サービスを利用できる。飲料水へのアクセスは人々の権利であり、水はすべての人が享受できるものでなければならない。この成果により、家庭での健康や経済状況が改善されるだけでなく、コミュニティの尊厳とより良い生活を送る権利も再確認される。1990年以降、「誰1人取り残さない」というスローガンの下に、日本はエルサルバドルの地域開発に貢献してきた。これまでに459件の地域プロジェクトに取り組み、投資額は400万米ドルを超えている。今後の課題は、達成された成果を大切にすることである。上水道施設について透明性のある効率的な運営を維持し、インフラのメンテナンスを適切に行い、コミュニティの参加を推し進めて、時を経ても持続的に利用されるよう願う。



ロレンソ・リーバス
西カバニャス市長

私は市長として、この社会の一員として、地域の必要性を見てきたが、日本の支援を受け、カンポ財団ができる限りの援助をし、コミュニティが努力と犠牲を払って取り組みを行ってきた。こうして井戸や貯水タンク、コミュニティの各家庭にいき渡る配水網が整ったことで、今、大きな満足感を得ている。この貴重な資源である飲料水を大切にし、このコミュニティがその恩恵を享受することを願っている。



カレン・エルナンデス
・ケセラ・アバホ村落
開発協会長

この成果は、コミュニティと組織が手を取り合って活動することで計画目標を達成できることを示している。日本大使館、カンポ財団、市役所、関係機関、そして、この上水道施設を建設するにあたりあらゆる形で支援してくれたすべての人々に、我々コミュニティとして感謝する。今日、我々はこの上水道施設を享受し、大切に守らなければならないという責任を感じている。



アレクシ・ロメロ
・カンポ財団代表

本日、上水道施設が竣工したが、実際には単にインフラ整備を祝っているだけではなく、何百世帯の健康、幸福、未来に影響を与える変革を祝福しているのである。長年にわたり、ケセラ・アバホとランチョ・ケマド・コミュニティの人々は、家庭生活を維持するという基本的な必要性を満たすために時間と労力を費やし、長い距離を歩いて水を獲得しなければならなかった。飲料水の不足は単なる欠乏を意味するだけでなく、健康に対する不安、制約、リスクも伴う。だからこそ、本プロジェクトは明確な目的を持って開始された。それは家庭に安全な水を届け、生活条件の改善に貢献することである。そして本日、その目的は実現された。



在エルサルバドル日本国大使館が「草の根・人間の安全保障無償資金協力」を通じて実施している案件は、「人間の安全保障」の概念である「人間一人ひとりに着目し、生存・生活・尊厳に対する広範かつ深刻な脅威から人々を守り、それぞれの持つ豊かな可能性を実現するために、保護と能力強化を通じて持続可能な個人の自立と社会づくりを促す考え方」のもと、エルサルバドル国民、特に国内で最も脆弱な地域の生活環境の質を改善しようと試みるものです。